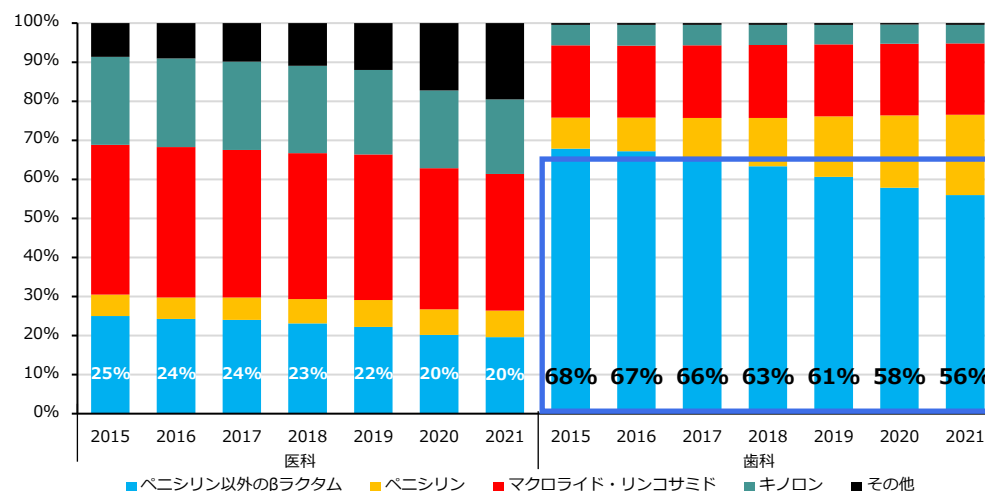


抗微生物薬適正使用の手引き 第4版について（報告）

現状

- 歯科領域に関する抗菌薬適正使用はアクションプランに記載がほぼないものの、歯科領域においても、種々の症例において抗菌薬を投与することがあり、その使用については抗菌薬の適正使用の観点を考慮することが望ましい。
- 全国抗菌薬使用量調査によると、内科領域における内服抗菌薬は 90% 以上であり、**歯科領域では 99% が内服抗菌薬**である。さらに、歯科領域においてはペニシリン以外の βラクタム系抗菌薬が半数を占め、その中でも**第3世代セファロスポリンが大部分を占めている**。
- 本邦においても JAID/JSC 感染症治療ガイドや歯周病患者における抗菌薬適正使用のガイドラインに抗菌薬の使用方法が記載されているものの、使用量調査より、必ずしもガイドラインに準じた処方になっていない状況があると推測される。

全国抗菌薬使用割合(%) 2015-2021 内科と歯科に分けた内服別抗菌薬種類による集計



ペニシリン以外のβラクタム	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
第一世代セファロスポリン系	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%
第二世代セファロスポリン系	17%	16%	15%	15%	15%	15%	15%
第三世代セファロスポリン系	79%	80%	81%	81%	81%	81%	81%
その他	2%	2%	2%	2%	2%	2%	2%

課題

- 抗菌薬使用量や使用割合より、医療現場では抗菌薬使用に当たりガイドラインを必ずしも厳守していないと推測され、更なる適正使用の推進に向けた取り組みが求められる。
- 歯科領域の抗菌薬処方方は、多くが歯科診療所で行われていると推測され診療所内での処方が完結するケースがある。このような状況を踏まえると本質的に製薬企業等との利益相反（COI）の考慮が必要であり、国から適正使用の情報を発信することが必要である。
- 以上を加味して、**薬剤耐性（AMR）対策アクションプランにおける戦略4.1を基に、歯性感染症に対する治療薬や術後感染予防抗菌薬適正使用等の歯科領域の適正使用に向けた包括的な手引きを作成してはどうか。**

手引き改訂に係るこれまでの検討状況について

抗微生物薬適正使用の手引き改訂に係る審議会の実施状況

● 令和6年10月16日：第9回 薬剤耐性（AMR）に関する小委員会

（事務局案）小委員会において、以下が承認された。

- 第三版 [本体（外来編、入院編）・別冊・補遺] の内容整理および更新を行い、第四版とすること
- 抗微生物薬適正使用の手引きに歯科診療に関わる医療従事者を対象とした「歯科編」を追加すること

● 令和6年11月19日：第6回抗微生物薬適正使用（AMS）等に関する作業部会

（事務局案）作業部会において、以下が承認された。

- 医科編：構成の整理及び全体的な内容等を整理すること。
- 歯科編：術後の予防投与および菌性感染症の治療に関する歯科領域感染症、ペニシリンアレルギーおよび副作用の相違点、流通状況を考慮した治療薬の選定、等を盛り込むこと。

● 令和7年5月26日：第7回 抗微生物薬適正使用（AMS）等に関する作業部会（持ち回り審議）

- ・抗微生物薬適正使用の手引き第四版（案）について、歯科編の審議

● 令和7年6月24日：第8回 抗微生物薬適正使用（AMS）等に関する作業部会

- ・抗微生物薬適正使用の手引き第四版（案）の一次原稿の審議

● 令和7年9月19日：第9回 抗微生物薬適正使用（AMS）等に関する作業部会（持ち回り審議）

- ・抗微生物薬適正使用の手引き第四版（案）の二次原稿の審議

（事務局案）作業部会において、以下が承認された。

- 歯科編：臨床現場への手引きの普及啓発媒体として、抗微生物薬適正使用の手引き第四版歯科編の要約版の作成。

● 令和7年10月8日：第12回 薬剤耐性（AMR）に関する小委員会

- ・抗微生物薬適正使用の手引き第四版（案）の二次原稿について審議された結果、承認された。

概要

- 構成の整理：外来編・入院編・薬剤耐性菌感染症の抗菌薬適正使用編・歯科編の4部構成とした。
- 手引きの「主な対象者」の表（参考資料2-1, 2-2, 2-4）を作成した。
- 「患者・家族への説明」の例示については、柔軟な対応ができるよう、手引き本体からは削除し、当課HP（AMR対策について）やAMR臨床リファレンスセンターのHP上へ掲載する。
- 全体的な内容整理：新規項目の追加（以下）、及び既存の項目について時点更新を行った。

<新規項目>

【外来編・入院編】（参考資料2-1, 2-2）

- ・新規項目として、「抗菌薬のAWaRe分類とは」、「在宅における抗微生物薬適正使用について」、「皮膚軟部組織感染症」を追加した。また「COVID-19」の項を追加し、細菌性肺炎が疑われないCOVID-19（軽症・中等症）症例における抗菌薬の不必要使用に関して記載した。

【薬剤耐性菌感染症の抗菌薬適正使用編】（参考資料2-3）

- ・薬剤耐性菌感染症の治療について時点更新
- ・診断・治療のフローチャートを作成した（ESBL* や AmpC β -ラクタマーゼ産生腸内細菌目細菌、カルバペネム耐性緑膿菌、*Acinetobacter baumannii* complex 等）。

* ESBL：基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ

【歯科編】（参考資料2-4）

- ・歯科における「抗菌薬の処方の現状」をまとめるとともに、抗菌薬の「予防的投与」や「治療的投与」、「腎機能低下患者への対応」、「抗菌薬のアレルギー」等について記載した。
- ・抗微生物薬適正使用の手引き第四版歯科編の要約版（参考資料2-5）の作成